

くじゅう坊ガツル・タデ原湿原

湿地のタイプ：中間湿原

(くじゅうぼうがつる・たでわらしつげん)

位置：北緯33度6分、東経131度15分(坊ガツル)、北緯33度7分、東経131度14分(タデ原)／標高：1,230～1,270m(坊ガツル)、1,000～1,040m(タデ原)／面積：91ha／湿地のタイプ：中間湿原／保護の制度：国立公園特別保護地区および特別地域／所在地：大分県竹田市、九重町／登録：2005年11月／国際登録基準：1



坊ガツル湿原と火山群(北側からの展望)

湿地の概要：

日本は火山の国であり、日本列島には多くの火山群が連なっている。九州の中央部にも霧島火山帯が縦断していて、その北端(大分県の南西部と熊本県の県境付近)には九重火山群がある。

九重火山群に囲まれた盆地や山麓の湧水地に形成されたのが、坊ガツルとタデ原の2つの中間湿原である。

坊ガツル湿原は三俣山、平治岳、大船山の火山群に囲まれた山間の盆地にできた湿原、タデ原湿原は火山地形の扇状地にできた湿原で、山岳地域に形成された中間湿原としては国内最大級の規模である。

多様な地質と地形を反映した植生分布がみられ、ヨシやヌマガヤ、ススキなどを優占種とする草原の周辺部にはノリウツギ低木林、堆積土の露出部にはクロマツ群落などがみられ、我が国を代表する湿地タイプとなっている。

景観と観光：

二つの湿原は阿蘇くじゅう国立公園の中心的存在であり、火山の噴煙と草原、森林が織りなす美しい景観と点在する温泉を楽しみに、年間500万人の観光客が訪れ

る。初夏のミヤマキリシマが咲くころ、夏山の登山シーズン、秋の紅葉のころはとくに賑わう。基点となる長者原にはビジターセンターがあり、タデ原湿原を散策できる木道が整備されている。

坊ガツルとタデ原湿原は九州自然歩道で結ばれている。

坊ガツルはキャンプ場としても人気があり、「坊ガツル讃歌」が九重山群を愛する人々に歌われている。

野焼き：

二つの湿原には、シダ植物74種、種子植物493種が確認され、ツクシフウロやシムラニンジン、オオミズゴケなどの希少種も多く生育している。これらの植生を維持し、湿原の森林化を防ぐため、毎年春には、枯れ草を焼き払う野焼きが地元の人々の手で行われている。

【中間湿原】 湿原は、泥炭層の発達によって低層湿原、中間湿原、高層湿原に分類される。水中に堆積した泥炭層がだんだん厚くなり、地下水の影響が少なくなり、富栄養から貧栄養へむかう途中の、低層湿原から高層湿原への発達途上にあるのが中間湿原である。ヌマガヤが代表



タデ原湿原

的な優占種となっている。

●関係自治体

九重町役場 Tel: 0973-76-2111

竹田市役所 Tel: 0974-63-1111

